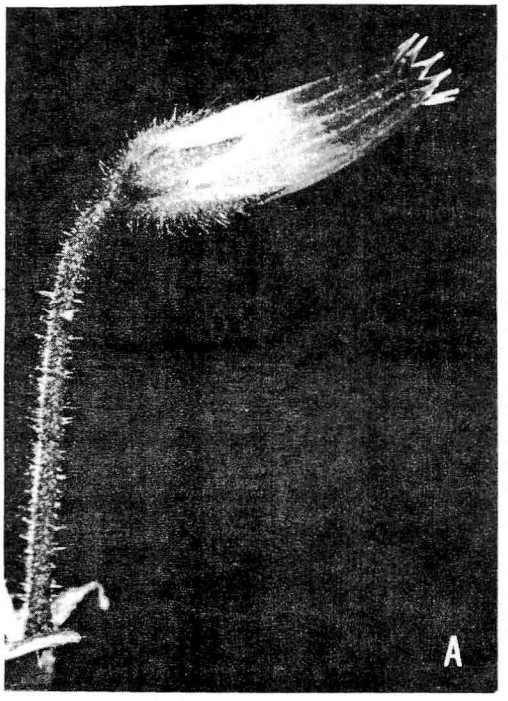
FLORA KANAGAWA

神奈川県植物誌調査会ニュース　第3号

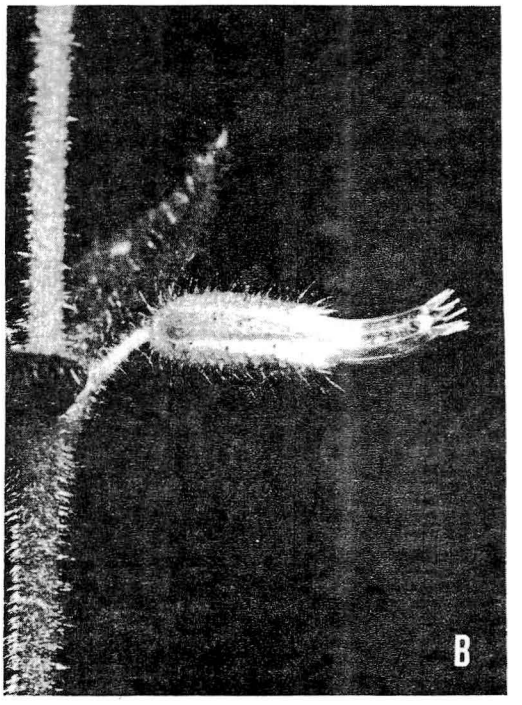
MAR. 15. 1980

No. 3

231　横浜市中区南仲通り5—60　神奈川県立博物館内
神奈川県植物誌調査会（振替口座　横浜10195）
TEL　045—201—0926



A　ミミナグサの果実
Cerastium holosteoides Fries var. hallaisanensis Mizushima



B　オランダミミナグサの果実
Cerastium glomeratum Thuillier

○　ミミナグサとオランダミミナグサ

セイヨウタンポポが日本在来のタンポポ類を圧迫しているように，都市域を中心とする土着種属と外来種との戦いは在来種に不利な場合が多いようです。日本在来のミミナグサ対，新来のオランダミミナグサの場合も同じような傾向にあるようです。

ミミナグサは分布の主域が中国にありインド，台湾，朝鮮から日本にも及ぶものです。日本には古くから畑や里の雑草として知られてきましたが，古きをたずねれば或いは農耕と共に中国から渡ってきたものかも知れません。

これに対しオランダミミナグサはヨーロッパ原産の雑草で日本には明治年間に渡来したもののようです。しかし最近ではどこでもオランダミミナグサが圧倒的に優勢で，ミミナグサは非常に少なくなっています。ミミナグサが多い所は自然度の高い所といってもよさそうです。

さて両者の区別ですが，果期における果梗の長さが最も確実です。ミミナグサでは萼よりもはるかに長い梗があるのにオランダミミナグサでは萼と同長位しかなく，果実の大きさもかなり違います。またミミナグサは葉が深緑色で茎が紫色を帯びることが多いのに対し，オランダミミナグサは全体が黄色味がかった緑色です。土着のタンポポの多い所ではミミナグサが多く，セイヨウタンポポ優勢な所ではオランダミミナグサも優勢といったことが見られると思います。

（大場達之）

○　相模原市のツチアケビ

市内大島（海抜112m）の相模川流域の林を散策中ツチアケビを1株見た。そこは400㎡位のモウソウチク林で付近は，新興の住宅地があり，数年後には，全面的に宅地化される。生育地は腐葉土が，4cm位積っており，その下は黒土及び一部ローム層が露出している。そこの主な植物は，キズタ，ヤブコウジ，マンリョウ，アオキ，シロダモ，エビネ，ジャノヒゲ，キチジョウソウ等，またスギの20年生のものが7～8本植えられていた。ツチアケビを採集したのは，11月15日で株の根元より折り，濃赤色の果実を標本とした。茎は直立し，高さ40cm位，上部にアケビに似た狭だ円形の果実が5個下垂していた。神奈川県内では横浜，厚木，鎌倉，小田原，箱根，川崎，丹沢（大山，簑毛，津久井，宮ケ瀬，世附）などに点々と分布が知られるが，相模原市では新発見であるので記録しておきたい。なお隣接の町田市には記録がある。　（八木　馨）

○　むくろじ（むくろじ科）

昭和41年11月8日付の神奈川新聞に現在，横須賀の博物館に勤務されている大谷先生が，本品について，所在を確認されました。それは横須賀市，林，海上自衛隊，敷地内の岩崎山と御幸山で，多くの樹木の中に，「むくろじ」のある事の記事でした。その後，横須賀市馬堀町の浄林寺に，地上一米内外の所で径30糎位樹高12～3米の見事な物がある事を教えて頂き市内で初めて見る大木に出会いおどろきやら珍らしいやらで一杯でした。丁度，11月の中旬で，梢には丸い形をした果実が，数多く残っているのを観察出来ました。今でも時折ここを通る度に眺めては，移り変わる自然の美しさに心をひかれる様です。今回の植物調査で，市内根岸町2丁目4番地付近と，同町2丁目40番地付近の二ケ所で，一ケ所は地上20糎位の所から切られている直径30糎位であり，その株から数本の蘖が，「むくろじ」であることを，教えているかの様でした。また，市内太田和5丁目2609番地，入口にも目通り30糎，樹高10メートルがあり，家の方のお話しによりますと，祖父が子供の頃はこの木の枝にぶらさがって遊んだのだそうです。また，この果実を「おころ」と言って缶詰の空缶に入れてかきまぜて，シャボン玉を作って遊んだそうだ。近年では果実が，なる年とならない年とがある。今年はならない年です。などと話をしながら水仙の株間より数個の果実を拾って私に下さった。付近には，この辺の昔の面影が偲ばれるかの様な「あかめがしわ」や「しい」の大樹がありました。又聞きですが三浦郡葉山町，上山口小学校，裏側の川辺にも昔はあったそうです。この地に生まれ，育った方の話で「おころ」と言って，シャボン玉で遊んだそうです。尚，神奈川県中井町藤沢にもあり，果実を「へぼたんきょう」と言っていたそうです。（私の祖母の話）　県外では，埼玉県の「児玉」にもあり，この地方では「もくろんじ」と言って，子供の遊ぶよい素材であったらしい。そう数多くある木でない為に隣接の群馬県の方まで出向き拾い集めたという話しを聞きました。昭和26年11月中旬に小田急線，鶴川駅よりバスで15分位行った所の神社にあったそうです。株は，かなり大きく見上げる程のものであったそうです。神社名が，不明とは残念ですが，ここに住んでいられる方の話しでは「お正月の羽子板の羽根に使ったのだよ」と言われた事からも，本品が「むくろじ」である事がわかります。この様に数多くある樹種とは思われないが，横須賀にも，自生と思われるものが，そこ，ここに点々と育っている事や，かなり北の方までも分布している事がわかりました。何れにしても，昔から多くの人々に愛され育てられてきた「むくろじ」が都市化の波に，大樹が，一見，なんの抵抗もなく無念にもその姿を変え様としている事は，大自然とのかかわり合いの中で育って来た人間が，今，自然との接触を次第に遠ざけて行くかの様な気がしてならない。　（西山　清治）

○　相模川の植物近況

昨年より相模川の河口から城山ダムに至る河川敷の植物調査を実施している。過去の調査資料がないので，比較検討はできないが，2・3気づいた植物をあげてみたい。

最近目立って増えてきた帰化植物にメリケンガヤツリ，オランダガラシ，コカナダモ，アメリカネナシカズラ，ヒロハホウキギクなどがある。このうちオランダガラシとコカナダモは20号台風で殆ど流出してしまった。アメリカネナシカズラは河口域では主にハマヒルガオを，内陸ではカワラヨモギを寄主としている。メリケンガヤツリは2・3年前から急激に増えはじめたもので，今では普通の雑草である。在来の植物では昨年ニガガシュウを河口で見出した。私は三浦半島で見ているが，少ない植物の一つである。また相模川の貴重植物の一つであるカワラノギクは昨年は台風でかなり痛めつけられた。今のところ城山ダムから水道橋にいたる安定した河川敷に，カワラニガナ，カワラヨモギ，カワラハハコなどとともに点々と見られる。

（高橋　秀男）

○コミネカエデとナンゴクミネカエデ

コミネカエデは丹沢，箱根山地のブナ帯に生えるものとして疑いがもたれていない。しかし，最近大場達之氏と原色日本植物図鑑木本編Ⅰ（298頁）を見ていたら，本県はナンゴクミネカエデの分布域に入る可能性があることを示唆する記事が目にとまった。両者の区別点は花の大きさにあり，果実期では大変見分けることが難しいという。早速標本室で県内産を検討したところ，良い標本は少なかったが，丹沢，箱根で集められた標本はみなコミネカエデのようであり，最も近くのナンゴクミネカエデの産地は静岡県の安倍峠と七面山であった。花期は5～6月。本年の調査課題の一つにしたいと思う。　（高橋　秀男）

○　湘南ブロック

6月9日（土）午後第1回の野外観察会を行う。大磯駅に集合し，大磯町と平塚市の境にある浅間山(181m）の南北両山腹を歩き，豊かな海岸丘陵地の植物を観察し，分類の勉強を行う。

10月20日（土）午後，平塚市博物館で第2回の連絡会を開き，各地区の調査採集状況，作成した標本数，調査上の問題点についての情報交換と，ラベルの配布と記入方法の説明を行う。なお，次の行事を計画する。○毎月第3土曜日を平塚市博物館科学教室での勉強日とする。館で用意した図鑑，双眼顕微鏡等を使って，持参した標本の種類を調べたり情報の交換等を行う。

藤沢市　6月30日，8月25日に教育センターで会合し，センター付近に居を構える大谷さんの腊葉を同定したり，情報交換を行ったりしました。20日の湘南支部会にも2名しか出席できないといった皆さんそれぞれ本業に追われて思うように委せられない実状です。現在標本作成数はＦＵ－１で50，同2で300，同3で500，ＥＮで50になりました。本年度確認したもののうち市内では比較的珍しいものを別記いたします。

シダ植物～オオハナワラビ，ナツノハナワラビ，ハイホラゴケ，ナライシダ，ヤワラシダ，ハリガネワラビ，ニシキシダ，コバノヒノキシダ。

裸子植物～モミ。双子葉植物～ハンゲショウ，ヤマナラシ，バッコヤナギ，カナビキソウ，ヒメハギ，カントウカンアオイ，イチリンソウ，イカリソウ，タブノキ，カゴノキ，ジロボウエンゴサク，キケマン，ゲンバイナズナ，ミズタガラシ，タコノアシ，ヤマネコノメソウ，タマアジサイ，フジザクラ，イヌザクラ，フユイチゴ，バライチゴ，トゲナシキイチゴ，トゲナシイチゴ，オオトゲナシイチゴ，レンリソウ，オオバクサフジ，クロバナエンジュ，ムラサキウマゴヤシ，ウルシ，ツルオオバマサキ，ツリハナ，ボダイジュ，イタビ，コケオトギリ，ヒメオトギリ，アカネスミレ，ツボスミレ，マルバスミレ，アオイスミレ，ヒメミソハギ，タニタデ，ヌマトラノオ，コバノトネリコ，シナノガキ，フデリンドウ，ヒレハリソウ，トネリコ，ヤマトウバナ，ハッカ，ウツボグサ，ケイワタバコ，ハシカグサ，ゴキヅル，シロバナタンポポ。

単子葉植物～ウシクグ，ウキヤガラ，ヒメシラスゲ，ゴウソ，ヤマラッキョウ，オオバノトンボソウ，サイハイラン，ネジバナ，クマガイソウ，ウバユリ，ドクムギ。確認できなかったもの～江の島のホウライカズラとヤブアワイチゴ等。　（根本　平）

茅ケ崎市、寒川町　茅ケ崎市では確認種数750，採集種数450，寒川町では確認種数480，採集種数368，月に1～2回文化資料館に集まり標本の整理などしている。今まで新しく自生が確認された植物は次の通りである。アオビユ，アカバナ，イヌシダ，イワニガナ，ウワミズザクラ，エゾノギシギシ，オオバタネツケバナ，オニヤブタビラコ，オニヤブマオ，カナビキソウ，カワラニガナ，キレハアカミタンポポ，クロカワズスゲ，コハナヤスリ？コバノセンダングサ，ササバギンラン，セイヨウヤブイチゴ，トンボソウ，ナガバギシギシ，ナルコビエ，ナンテンハギ，ハリビユ，ヒキヨモギ，ヒゲガヤ，ヒロハクサフジ，ワスレナグサ。　（小原　敬）

平塚市　平塚の西部三陵地を中心としたＨＩ－１は，11月までで約500種の標本を作り終えた。秋は調査回数が大巾にダウンしたので，来年以降の宿題がたくさん残っている。市内土屋の琵琶に市の青少年施設が作られることになり，その予定地内の植物を調査したが，ここは谷沿いにケヤキとイロハモミジの林が残り，なかなか面白い所である。尾根には市内では他にほとんどみられないモミが数本見つかり，またアカシデが多いこと，林床にマンリョウがちらほら見うけられることも特徴といえよう。林には手をつけないで残して行くという方針だそうで，ほっとしているところである。　（浜口　哲一）

秦野市　ＨＡ－１では今年は三ノ塔を中心に入って見ました。南面の日向に植物は多い様です。

先日はクズハ沢をやってみました。つめの人の入らない所にはまだ植物が残っている様です。マツムシソウ，リンドウの群生を見ました。秋空の様なこの花々が，今年の山の花の最後でしょうか。あの山，この沢にと思っているうちに，もう山は冬がそこまで来ている様です。採集の点もまことに乏しいものでした。みんな来年を期しています。9月末に三ノ塔に入る途中猪に出会い，逃げ帰ったこともありました。今迄に写真に撮った種数は64，確認種数54，採集（写真）種類，アセビ，ハシバミ，シバヤナギ，クロモジ，ホウチャクソウ，ヤブレガサ，シロヤシオ，ミツバツツジ，ヤマハタザオ，ハルリンドウ，ヤマザクラ，ブナ，キンラン，ジシバリ，ツクバネウツギ，ホタルカズラ，ウマノアシガタ，カラスヒシャク，センボンヤリ，ヤマブキ，カントウタンポポ，ヤマハハコ，ウバユリ，シモツケ，ハンショウヅル，ヤマオダマキ，ヤマボウシ，ミヤマシャジン，ウスユキソウ，ヒメイワカガミ，イワナンテン，イタドリ，アキノタムラソウ，アキノキリンソウ，コマユミ，ヤマトリカブト，テンニンソウ，ヒヨドリバナ，オトコエシ，フシグロセンノウ，ヤマホタルブクロ，フジアザミ，オミナエシ，クズ，フジ，ナナカマド，ヤマユリ，クガイソウ，クサボケ，アオスゲ，ユウガギク，オオマムシグサ，アオキ，フタリシズカ，エイザンスミレ，マルバスミレ，マツムシソウ，キジムシロ，オドリコソウ，サルトリイバラ，ホトトギス，ヤマジノホトトギス，ウメバチソウ，ヤマゴボウ。　確認だけの種類～イヌシデ，クマシデ，コナラ，クヌギ，ケヤキ，クリ，エノキ，アカマツ，クロマツ，スギ，ヒノキ，スイバ，ミズヒキ，アキノウナギツカミ，イヌタデ，ナガボノハナタデ，ミツバアケビ，ネムノキ，ヤマハギ，マルバヌスビトハギ，ナンテンハギ，イヌサンショウ，ヤマウルシ，ミツバウツギ，ホソバミツバウツギ，イロハモミジ，ハウチワカエデ，オオモミジ，コミネカエデ，ヌルデ，ニシキギ，ホウノキ，ガクウツギ，シモツケソウ，ヒメシャラ，オトギリソウ，ミソハギ，ウド，ヒカゲミツバ，アオキ，ミズキ，ベニドウダン，ヤブコウジ，ヒイラギ，リンドウ，タツナミソウ，ホトケノザ，イ

ヌフグリ，ナンバンギセル，オオバコ，アキノノゲシ，ノブキ，ミヤマナルコユリ，

伊勢原、大山地区　伊勢原地区での調査は，既製のリストの1つ1つをつぶしながら行ってきたが，国定公園内と取り残しがまだ目立っている。新しく採集したものでは，ナライシダ，ナガボノナツノハナワラビ，カリガネソウ，オオルリソウ，マメアサガオ等10数種があった。標本作成状況はＩＳＥ－１で370，同２で230，同３で280となる。大山はまだ調査だけであるが，８月16日には，全国的に見ても稀産なオオハクウンランを確認することが出来た。（守矢　淳一）

その他の地区　大磯，二宮，中井，平塚や秦野の他のメッシュでも活発な調査活動が続けられ50~250種位の標本が作成されている。

○　三浦ブロック

アマナ

宅地造成のため，三浦半島から姿を消してしまったのかと思われていたアマナが，横須賀市内で見つかった。アマナが生育しているのは農家の裏の畑で，その家の人しか入れないので保護は可能である。アマナは，畑いっぱいに出ていて，作物の成育をじゃまして困るらしい。また，アマナのことを，オショロと言っていた。

ヘビノネゴザとハリガネワラビ

ヘビノネゴザとハリガネワラビは，横須賀市や三浦半島ではあまり見ることのできなくなったシダである。そのヘビノネゴザの生育地として，今度の調査により浦賀町を追加記録できることとなった。株数は10余株である。そのヘビノネゴザと同じ場所に，ハリガネワラビのあることも確認できた。保護していきたいと思う。

コバノヒノキシダ

コバノヒノキシダが，東浦賀町の神社の境内にあることがわかった。葉山の二子谷よりも数も多く，よく成長しているとおもう。

コバンソウ

葉山の海岸に，コバンソウの群落があることがわかった。もとは，葉山公園にあった（大谷茂先生の話）ものらしい。横須賀市内では，湘南鷹取の団地内にあることも確認されている。ヒメコバンソウは，各地にある。　（石渡　宏）

○　県北ブロック

1.　前号で県北ブロックの調査員希望者が続々現われることを期待すると書きましたが，さっぱり反応がありません。重ねて緑の宝庫「県北」への挑戦を名乗る緑の勇士の出現を渇望します。

2.　県北ブロックの世話係は県立津久井高校の高橋節郎先生が担当して下さっています。

3.　県北ブロックでは調査会発足の４月以降毎月１回合同調査を兼ねて現地学習会を持っています。それを簡単に紹介します。

４月15日（城山）ニリンソウの大群落に迎えられて山路にはいる。イチリンソウ，ヤマルリソウ，フデリンドウ，エイザンスミレが咲く道にナガバスミレサイシンの残り花，ユキザサの蕾も見える。ミミガタテンナンショウもひっそりと立つ。頂上にはニシキゴロモが分布する。タブ，シキミ，ミヤマシキミも開花中。

５月20日（峰の薬師）入口から珍しい植物の出迎えを受ける。中国原産帰化植物セリバヒエンソウである。道端の雑草群落として落ち着いている。マルバウツギの花に飾られた道を行くとジャケツイバラの黄花が美事に咲く。コバノタツナミソウも可憐である。

オオツクバネウツギ，ミヤマナルコユリが開花中などと確かめていくうちにフナバラソウに出会う（少し葉が狭いのが気にかかるので再検を要する）。

６月24日（大室山）大場先生も同行して指導して頂く。ブナ帯にはいってツクバネウツギやサラサドウダンの分布が多く，タンナサワクタギの特異な樹肌も目立つ。コアジサイなどもぽつぽつあってヤマボウシーブナ群集の役者がそろう。ツクバネウツギにまじってベニバナツクバネウツギがある。ツクバネウツギにもかなり赤味を帯びた桃色花のものもある。蜜腺はツクバネウツギ型であるが前者との間種であろうか。アオホウズキ，タニギキョウが林床に多く，フジアカショウマ，キヌタソウも咲く。アマニウの分布は丹沢山集でも大室山以西ではないかと思いつつ見る。オオモミジガサも健在で，大場先生に現場付近の植物社会学的なお話をして頂き，オオモミジガサーブナ群集の説明も伺う。神の川に下って，前日大場先生が見つけておかれたキバナショウキランに案内して頂く。タマアジサイの群叢の中の腐木の傍に咲きかけている。

７月15日（早戸大滝－丹沢山）満開のオオバアサガラの歓迎で沢にはいる。壁にはヒトツバショウマが着く。クロテンコオトギリ，ホソバヤマハハコ，ハコネギクが咲く。花はないがウメウツギも岩に着く。手の届く枝にヒコサンヒメシャラの花がありシメタとよろこぶ。この種の葉裏中肋の毛が圧毛又は無毛か立毛かでトウゴクヒメシャラ（var. sericea Nakai）を分ける必要があるのかという前からの疑問が改めて頭に浮かぶ。丹沢山頂近くではバイケイソウの花穂が汚なく痛んだ葉をつけてわびしく立っている。

８月25日（三増峠）ハグロソウ，ミズタマソウ，ヤマゼリ，アズマヤマアザミ，ツルニンジン，サラシナショウマ等の花を見るなかにフシグロセンノウの赤が一段と鮮かである。花はないがアケボノソウ，カンアオイ，クマガイソウ等も顔を見せる。ハルニレ，ケンポナシ，クロウメモドキを確認する。

９月９日（桧洞丸）シロヤマギク，ヤマトリカブト，マルバダケブキ，ホソエノアザミ，イヌヤマハッカ，トゲキクアザミ，ハコネギク，イワキンバイ，シオガマギク，キオン等と花展はにぎやかである。頂上付近はブナ，ミズナラ，サワグルミ，リョウブ，イタヤカエデ，ムシカリ，ミヤマガマズミ，ヒコサンヒメシャラ，コミネカエデ，ヤマボウシ等を主な構成種とした原生林は素晴らしいが，登山道に沿ってブナの枯木も目立つ。ハリギリの大木を前にして樹種判定にしばら

く迷う。樹皮はあかるい茶色で縦裂剝離，ちょっとみると針葉樹のようである。これだけ立派なハリギリは丹沢山随一ではないかと首が痛くなるまで見上げる。
10月16日（陣馬山）セキヤノアキチョウジ，アワコガネギク，キバナアキギリ，ナギナタコウジュなど秋の野の花展もどうやら終りに近づく。
11月11日（小倉山）アラカシ，シラカシ，ウラジロガシ，ツクバネガシは多いがアカガシが見あたらない。山頂にあった何本かのタブの大木，カヤの老木そして樹下にはオモトが幾株か見える。ゴンズイの実も印象的である。この頂上に続く唯一筋の尾根だけがその貴重な自然植生を残しているように見える。伐採，植林の山肌が起伏しつつ続くなかでのこの一画はいつまで自然を保ち得るか心配なことである。（城川　四郎）

○　ブロックの区分と代表者は次の通りです。

調査に当っての連絡は，ブロック代表の方へお願いします。

横浜北・川崎地区　森茂彌（杉並区[redacted]）
横浜南地区　村上司郎（港南区[redacted]）
三浦地区　石渡治一（横須賀市[redacted]）
　　鈴木一喜（三浦市[redacted]）
湘南地区　守矢淳一（平塚市[redacted]）
県央地区　秋山　守（綾瀬市[redacted]）
　　高橋秀男（相模原市[redacted]）
県西地区　松浦正郎（小田原市[redacted]）
県北地区　城川四郎（秦野市[redacted]）
鎌倉地区　小林純子（鎌倉市[redacted]）

○　昭和55年度の行事計画

今年度はシーズン中に月1回採集会をブロックまわりもちで実施する予定です。計画の立案はブロックで行ないます。

4月　横浜南　　5月　県央　　6月　横浜北・川崎　　7月　三浦　　8月　県北　　9月　県西
10月　湘南　　11月　鎌倉

第1回ブロック別植物調査―横浜南地区―の計画は次の通りです。多数御参加下さい。

期日　**4月13日**（日）午前9時磯子区氷取沢（ひとり）バス停集合。国鉄磯子駅より市営バス氷取沢行，京浜急行上大岡駅より江ノ電バス氷取沢行，終点下車。
コース　氷取沢市民の森－円海山頂－護念寺－峰市民の森－洋光台駅　午后3時頃解散予定。
持ち物　弁当，水筒，ビニール袋，手帳，野冊など
軽いハイキングコースです。足ごしらえさえしっかりしていれば服装は何でもけっこうです。どなたでも参加できます。スミレ類やシダの芽生えがきれいでしょう。

第5回植物研究講座・腊葉標本のつくり方講習会
腊葉標本（押し葉）のつくり方を実際に行ないます。新しく植物誌調査に参かくされた方，また標本づくりの経験のない方の参加を希望します。
期日　**4月19日（土）**　午後2時－4時
会場　県立博物館
講師　県立博物館学芸員
持物　野冊，当日標本に製作する材料を採集してきて下さい。

第6回　植物研究講座　（予告）
6月8日（日）　テンナンショウ類ほか

○　神奈川県植物誌調査会会則

1.　本会は神奈川県およびその隣接地域の植物相を調査し，その成果を刊行することを目的とする。
2.　本会は神奈川県植物誌調査会といい，事務局を神奈川県立博物館（横浜市中区南仲通り5－60）内におく。
3.　本会の目的に賛同し，別に定める会費を納入するものをもって会員とする。
4.　本会は，その目的を達成するために次の事業を行なう。
①植物に関する研究会，観察会，講演会などの開催
②会報，諸成果の刊行
③その他役員会で必要と認める事業
5.　会の運営にあたり，次の役員をおく。任期は2ケ年とするが，再任はさまたげない。顧問若干名，代表2名，地区代表若干名，運営委員若干名，事務局員（庶務，会計）若干名。
6.　本会は役員会の合議によって運営する。役員は顧問，代表，地区代表，運営委員，事務局員をもって構成する。
7.　役員の選出，会則の改正は総会の承認を得て決定する。
8.　総会は年一回開催する。
付則
会則は昭和55年1月27日より実施する。
会費は当分の間年額2,000円とする。

上記のように会則が1月27日の総会で決りました。

○　会費納入にご協力を

1月27日の総会において年会費2,000円に決まりました。まだ納入されていない方は宜しくお願いします。送金は振替でお願いします。
振替口座　神奈川県植物誌調査会
横浜　10195

○ 神奈川コケの会　〃県産コケ目録づくり始まる〃

本会の設立の目的はコケ植物（蘚苔類）の普及活動と県産コケ目録を作成することである。代表は神奈川歯科大学の広浜徹氏で事務局を同大生物学教室（横須賀市稲岡町82）に置いている。

発足来観察会を，丹沢大山．神武寺．箱根宮の下などで行なっている。研究会は県立博物館と神奈川歯科大学で顕微鏡を用いて種の同定や図鑑の検索の仕方についての講習会を実施した。コケ植物に関心を持っている方ならば常時会員になれます。会員数36名現在。

（神奈川コケの会庶務幹事　神奈川県立博物館　生出智哉）

○ 神奈川県に分布しそうなタンポポ類

2月17日の第4回神奈川県の植物研究講座ではスミレとタンポポをテーマとしました。神奈川県にありそうなタンポポは次の通りですが，このうちカンサイタンポポは記録はあるものの実際は分布していないのではないかと考えられます。セイヨウタンポポとキレハアカミタンポポは種子の色と大きさが決めてのようで葉形や花では区別の難しいものが多いようです。図の上段は総苞の形，下は総苞片の外片と内片の形です。

TARAXACUM Wiggers　タンポポ属

a＝T. japonicum Koidz.　カンサイタンポポ，タンポポ(?)

b＝T. hondoense Nakai ex. H. Koidz.　エゾタンポポ（高地，津久井）

f. hondoense.

f. alboflavescens H. Koidz.　ウスジロエゾタンポポ

c＝T. platycarpum Dahlstedt　カントウタンポポ（内陸全般）

f. platycarpum

f. alboflavesces H. Koidz.　ウスジロカントウタンポポ

d＝T. longeappendiculatum Nakai　ヒロハタンポポ，トウカイタンポポ（沿海地）

f. longeappendiculatum.

f. alboflavescens Kitamura　ウスジロヒロハタンポポ

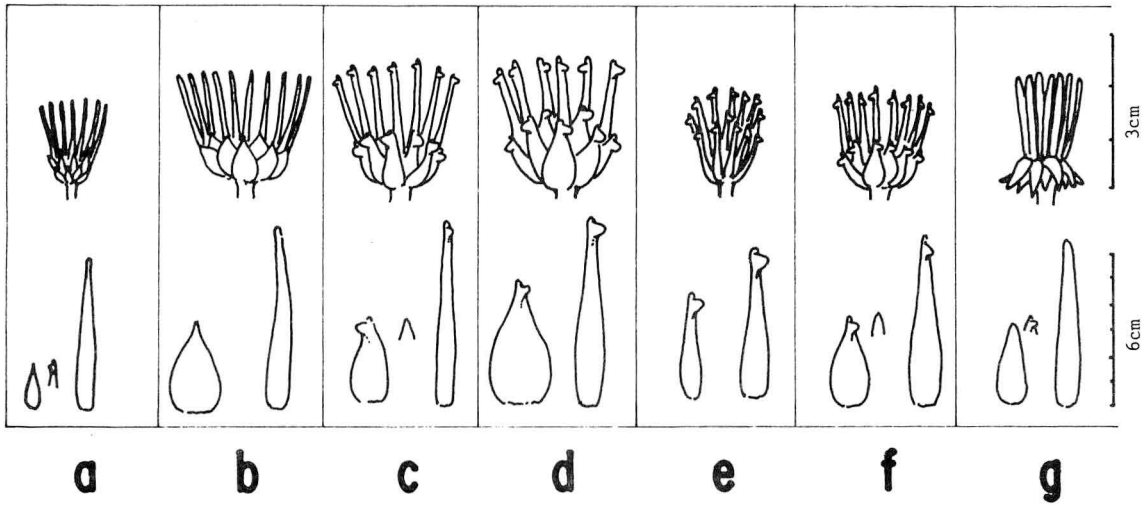
e＝T. variabile Kitamurs　キツネタンポポ（箱根，丹沢？）

f＝T. albidum Dahlstedt　シロバナタンポポ（点在）

f. albidum

f. sulphureum Kitamura　キバナシロタンポポ

g＝T. officinale Weber　セイヨウタンポポ（都市など）

T. laevigatum DC.　アカミタンポポ，キレハアカミタンポポ（都市）

○　第3号の発行が大変に遅れ，申しわけありません。今年は隔月位には発行したいと考えております。ようやく春です。皆様の御活躍を期待します（OH）